

2023年12月12日

恵庭市議会議長

様

会派名 子どもの未来を守る会

代表者氏名 太田 実保



政務活動費結果報告書

恵庭市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、当派の令和5年度研究研修結果報告書について、次のとおり報告します。

記

1 研究研修期間 2023年11月13日から 2023年11月15日まで（3日間）

2 内 容

研究研修名	地方議会活性化シンポジウム2023
研究研修会場	イイノホール 東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4階
参加人員	1名
研究研修内容	<p>人口減少社会の到来などにより地域が厳しい課題に直面する中で、地方議会の役割がますます重要になっていることや、地方議会を取り巻く環境が変化ましていることなどを踏まえ、地方議会議員等が一堂に会して意見交換等を行うこと等を目的として開催されている。</p> <p>開催日程：令和5年11月13日（月）14時～17時</p> <p>会場：イイノホール〔東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル4F〕</p> <p>主催：総務省</p> <p>共催：全国都道府県議会議長会、全国市議会議長会、全国町村議会議長会</p> <p>内容：基調講演、パネルディスカッション</p>

（研究研修資料／別紙のとおり）



研究研修内容
1. 基調講演
『将来の地方議会を担うのは誰か～多様な人材が参画する地方議会の実現～』
谷口 尚子 氏（慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）
地方議会の課題として、①投票率の低下、②無投票当選の増加、③議員の属性の偏りの3つをあげ、このような課題を克服するために、従来の議員像に限らない多様な人々の参入が必要であり、住民の理解や関心を高めることが必要であると述べていた。
多様性を増す方法としては、議会による広報活動に力を入れ、議会ツアー、子ども議会などのイベントを開催、HPなどオンライン広報を拡充するなど、主権者教育によって、若者が政治に関心を持ち、参加意欲が増すように大人の実力が重要である、とのことであった。また、立候補のハードルを下げるためには、コストやリスクへの支援が必要であり、さらに議会の在り方自体も、運営方法の柔軟化や、オンライン化などの制度や仕組みを改革していかなければならず、そのためにも議員自身、議会内全体で意識改革を行い、議会の信頼性を向上させることが重要であるということであった。
今回挙げられていた課題を克服するために、議会全体でこの問題に取り組んでいけるようにしていきたいが、まずは自分自身にできることとして、「子ども議会」を再び開催できるように働きかけていきたいと思う。子どもたちへの主権者教育をとおして周りの大人も共に学び、地域貢献の喜びを感じることで「共に歩む」意識を高めたい。
2. パネルディスカッション
『将来の地方議会を担うのは誰か～多様な人材が参画する地方議会の実現～』
コーディネーター：只野 雅人 氏（一橋大学大学院法学研究科教授）
パネリスト：鶴川 和彦 氏（北海道栗山町議会議員）「議員の学校について」
パネリスト：狩野 浩志 氏（群馬県議会議員）「群馬県議会における若者の政治への関心を高める取組について」
パネリスト：菅沼 芳典 氏（静岡県議御殿場市議会議長）「未来議会プロジェクト」
パネリスト：辻 陽 氏（近畿大学法学部教授）
パネリスト：益子 澄恵 氏（栃木県那須川町議会議長）「女性の力で地方を元気に私はこうして議員になった」

それぞれのパネリストから、所属している議会における取組の紹介があり、近畿大学教授の辻氏から、それらに対する質問や意見が述べられた。

栗山町議会における議員の学校は、なり手不足対策として令和5年2月から3月に開校し、議会と議員の役割、議員活動の実際を学び、傍聴して模擬議会を体験するというもので、受講者19名のうち3名が町議選に立候補し、全員当選したという。しかし受講者19名のうち女性は2名と少なく、今後に期待したい。町外からの受講者も半数近くいることから、必要な事業なのではないかと思った。

群馬県議会では、若者に政治や議会への関心を高めるための取組として、ぐんまシチズンシップアカデミー（大学生が議会傍聴し議員と意見交換）、GACHI 高校生×県議会議員（議員が高校を訪問し議会の解説と意見交換）、議員に密着ゼミナール（議員が大学訪問し「現代政治論」履修者と意見交換）など様々な事業を行っており、地道に続けることの大切さをあらためて感じると共に、自ら足を運ばなければいけないと痛感した。

御殿場市議会では、明治大学自治体政策研究所とパートナーシップを結び、市民対象の講演会や、高校生議会、高校の授業での講義と意見交換、大学生との意見交換の他に御殿場市議会政治塾を開催し、政治に関心がある人の立候補の背中を押すような事業にも取り組んでいた。議会としては、傍聴時の託児サービスや議会カフェなども行っており、このようにより多くの関心が集まるような取り組みを恵庭でも実施したいと思う。

栃木県那珂川町議会議長の益子さんからは、自身が3人の子育てをしながら議員を目指したきっかけから、選挙運動、現在の議員活動などをお話しいただいた。女性議員が少ない理由として、理想と現実の間のハードルが高いことを挙げつつ、これから先多くの女性が議員になるためには、一人では解決できない課題が多い為、挑戦しやすい環境を作っていくことと、ロールモデルを示すことが大切であるということであった。

多様な人材が参画する地方議会を実現し、議会を活性化させるためには、制度を変えていくことは重要であるが、今の仕組みの中で工夫していくことも必要で、地道に活動を続けていくことが大切であると改めて感じたシンポジウムであった。まずは、自分自身ができることから取り組んでいきたいと思う。

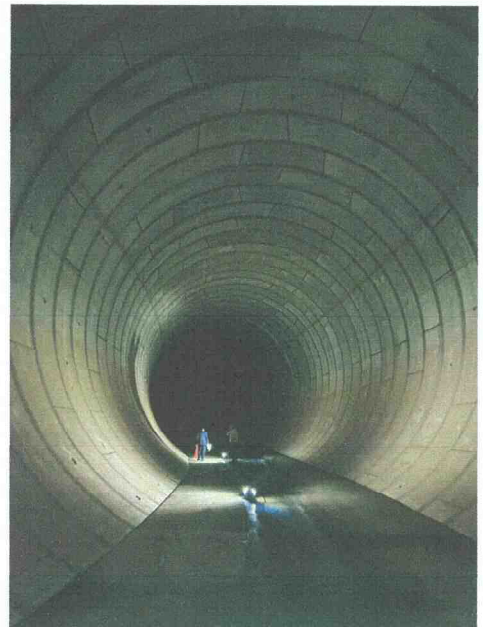
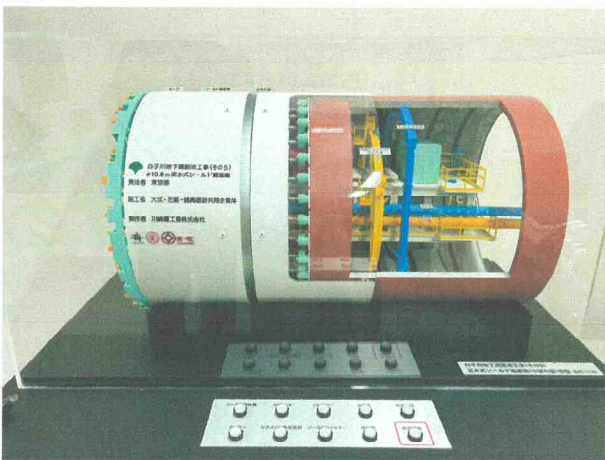
現 地 調 査	白子川地下調節地
現 地 調 査 会 場	東京都練馬区大泉
調査内容：照井課長（東京都建設局第4建設事務所工事第2課）より説明のち見学	
11月14日（火）	
<p>白子川地下調節池は白子川中流部の治水安全度の早期向上を図るため、比丘尼橋周辺に整備された白子川調節池群の一つである。東京都では、都市化の進展により、流域の保水・遊水機能が低下し、都市型水害が発生するようになったため、これまで進めてきた河川や下水道整備による治水対策だけでは対処することが難しくなった。</p> <p>このため、まずは時間50mmの降雨に対処することを目標に、従来の河川、下水道整備に加え、流域対策として雨水流出抑制施設についても、将来的に時間10mmの降雨に対処出来るように対策を進め、平成5年には、島しょを除く区市町村で総合治水対策協議会を設置し、東京都全域における総合治水を推進している。しかし平成17年9月の集中豪雨は時間100mmを超え、杉並区、中野区を中心に約6,000棟の被害が発生し、これまでの想定を超える状況となった。そこで平成26年6月「東京都豪雨対策基本方針（改定）」を策定し、対策強化流域・地区を定め、更に治水対策を推進した。</p> <p>白子川は、西東京市から練馬区の北東を流れ埼玉県に入り、板橋区内で新河岸川に合流する延長10km、流域面積25km²の一級河川で、昭和55年度に時間30mmの改修が全川に渡り完了しているが、現在は埼玉県と合同で時間50mmの降雨に対処する河川整備が進められている。『比丘尼橋上流調節池』、『比丘尼橋下流調節池』、『白子川地下調節池』からなる調節池群を設置し、洪水の一部を貯留することで下流部の安全を確保し上流への護岸改修を促進し、洪水を貯留し降雨による水害の軽減に寄与している。</p> <p>貯水池の規模にも驚いたが、あらゆる情報を収集し水害に備える体制や近隣自治体との連携事業など見習うべき点が多く、今後気候変動により想定外の災害が起こる可能性もあることから恵庭市でも今以上できる限りの策を講じる必要があると感じた。</p>	

現 地 調 査	江東区こどもプラザ
現 地 調 査 会 場	東京都江東区住吉 1-9-8
調査内容：加藤副館長（江東区こどもプラザ図書館）説明のち見学	
11月15日（水）	
<p>江東区こどもプラザは、令和4年5月に開館し、住吉子ども家庭支援センターやこどもプラザ図書館、地域交流スペースや多目的スペースなど、様々な機能を備えた区内初の「こども向け複合施設」で、子どもたちの健やかな成長を見守り支えている。</p> <p>4階建ての施設は、1階は飲食可能な地域交流スペース、2階は赤ちゃんから遊べるプレイルームと絵本や小学校低学年向けの児童図書、3階は小学校高学年・ティーンズ向けの図書コーナーや、学習スペース、4階はバスケなどもできる多目的スペース、会議室、音楽室があり、施設内は一部エリアを除き江東区公衆無線 LAN が利用できる。</p> <p>住吉子ども家庭支援センターは、子育てひろばと一緒に、1時間500円3時間まで月6日までリフレッシュ目的で一時保育も行っており、いつでも子育て相談することができる。こどもプラザ図書館は、シダックス大新東ヒューマン(株)に委託されていてそれぞれの職員が連携しながら施設を運営していた。もともと児童館だったところに図書館が移設された複合施設であることから、大規模ではなくコンパクトに子どもと保護者が使いやすいような設計がされていた。2階は赤ちゃんから低学年、3階は高学年から中高生が利用しやすいようになっていて、4階の多目的スペースがあることで講演会や様々なイベントを開催したり、中高生向けの時間帯も設定されていた。</p> <p>みんなのルールとして「普通の大きさの声で話すのはOK」なので、気兼ねなく赤ちゃんを連れて行ったり、親子で本を読むことができる空間となっていて、乳幼児から中高生世代までの様々な年齢の子どもたちが安心して遊べる居場所であった。恵庭市の居場所づくりでも中高生世代が課題であるが、小さくても体育館や音楽室など児童館が備えているような施設とイベントの実施が重要であると思った。</p>	

シンポジウム



白子川地下調節地



こどもプラザ

